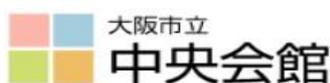


## 2019年度 第4回 レフェリー塾のご案内

1. 目的： 関西協会および関西各府県協会所属の意欲ある審判員に対して、自主的な研修・研鑽の場を提供し、審判技術の向上、知識の充実、モチベーションの増強をはかる。
2. 参加資格： 関西協会および関西各府県協会 所属審判員 ならびに インストラクター
3. 日程： 2019年5月～2020年3月（8月を除く）、全10回 各月の第4木曜日 19:00～21:00  
9/26, 10/24, 11/23, 12/26, 1/24, 2/27, 3/26

4. 会場： (大阪市内・毎回参加者にメール等で通知)

### 第4回 9/26(木)の会場



大阪市中央区島之内 2-12-31 ☎ 06-6211-0630

地下鉄堺筋線・長堀鶴見緑地線 長堀橋駅 徒歩7分

5. 参加料： 通年3,000円 ※ユース審判員は1,000円
7. 追加申込： 途中からの参加も可能。(参加料は通年と同じ)
8. 申込方法： 以下の各項目を明記の上、担当大歳まで事前申し込みをして下さい。

①氏名 ②所属府県 ③審判資格(級) ④メールアドレス ⑤携帯電話番号

追加申込・その他 レフェリー塾に関するお問い合わせ 担当；大歳 ohtoshi@r3.dion.ne.jp



前回(第3回 7/25)は RDO の廣瀬さんが参加してくださいました。以下 廣瀬格さんからの報告(抜粋)です。

初めてレフリー塾に参加させていただきました。今月のテーマは前回(6月)の山本雄大氏による「浦和レッズ対湘南ベルマーレ戦の得点に関わる事象」についての話を聞いて、参加者それぞれが感じたことを共有することで。1ヶ月前に山本氏から寄せられた言葉や想いがレフリー塾参加者の心に届き、それから1ヶ月間、参加者の心や頭の中で反芻そして熟成されて出てきた言葉は重みと深みがあるものでした。山本氏の言葉が参加者の心を動かし、「レフリング」についてより深く思考を巡らせることで、その理解が高まったことを感じました。以下に参加者が話された内容をキーワードでまとめました。

・「コミュニケーション」— 「審判員には何も言うな」という文化が依然としてサッカー界では、特に育成年代では選手に伝えられているように感じる。審判が誤った判断を下した際に、反則を受けた(その誤審で利益を受ける)選手自身自ら(その判断が誤っていることを)自己申告する文化を育めないか(サッカー先進国ドイツではそのような事例がある)。子供たちが、もちろん大人も、正しいと思うことを伝え、それを認め合うことはとても大切であると思う。・「信念」— 山本氏がリーダーとして、最後まで仲間の言葉を、そして仲間を守るのは自分だけだと信じて、正しいと思ったことを貫かれた強さに勇気をいただきました。・「サポート」— サポートするということは、決して相手に合わせる、相手についていくのではなく、自分の責任そして仕事を全うすることであると改めて感じました。・「仲間の支え」— 審判仲間、選手、チームスタッフそして関係者といった多くの方々を支えられて我々はフィールドに立つことができていることを再認識しました。○ J1 復帰戦となった試合で、サポーターが「お帰り!」という言葉を手本氏に投げかけたこと 他 ・「責任」— 同時に、フィールドに立ち試合を裁く審判員の責任。「もうあと少し外に開いていたら」、「どこかで油断していた自分がいたこと」、ずっと自分を責め続けられた山本氏の心情に、改めて我々がもつ、我々に与えられた使命、責任の重さを痛感した。

競技規則やその精神の理解、体カトレーニングやビデオクリップを用いた事象分析等を行い審判員が自身の技量を高めることはもちろん大切です。一方で、試合を裁くのは人であり、人が人を裁く難しさは今までも、そしてテクノロジーがどれだけ進んだとしてもこれからも存在し続けるはず。審判員としてその技術を磨くと同時に、選手、チームスタッフそして両チームのサポーターに受け入れられる人に求められるもの、その「人間性」を高めることや、「サッカーそのものの理解」を深めることも不可欠です。今回レフリー塾に参加させていただき、そのようなことを学び合い、語り合いそして一緒に互いを高め合う場がここ(レフリー塾)にあるように感じました。一見、このような学びは遠回りに思えるかもしれませんが、長い時間をかけて我々審判員に積み重なっていき、その審判員の「味」や「個性」になって表れ、それが必ず選手にも伝わっていくはず。最後に「レフリーはパイロットであり、機長が全責任を負うが、副操縦士も、管制官もそれぞれが自身の責任を全うしながら支え合い、補完し合うものだ」と伝えられた言葉も非常に説得力あるものでした。または是非参加させていただき、一緒に学ばせていただきたいと思います。(廣瀬)